

宿泊約款

名苑と名水の宿 梅園

第1条【適用範囲】

- 『名苑と名水の宿 梅園』（以下「当館」という）が宿泊客との間で締結する宿泊契約およびこれに関連する契約は、この約款の定めるところによるものとし、この約款に定めのない事項については、法令または一般に確立された慣習によるものとします。
- 当館が法令および慣習に反しない範囲で特約に応じたときは、前項の規定にかかわらず、その特約が優先するものとします。
- 当館が宿泊客との間で締結する宿泊契約およびこれに関連する契約に関しては、日本法を準拠法とし、当館の所在する地を管轄する地方裁判所を専属合意管轄裁判所とします。

第2条【宿泊契約の申込み】

- 当館に宿泊契約の申込みをしようとする者は、次の事項を当館に申出ていただきます。
 - ① 宿泊者名
 - ② 宿泊日および到着予定時刻
 - ③ 泊料金（原則として、別表第1の基本宿泊料による）
 - ④ その他当館が必要と認める事項
- 宿泊客が宿泊中に前項第2号の宿泊日を超えて宿泊の継続を申入れた場合、当館は、その申出がなされた時点で新たな宿泊契約の申込みがあったものとして処理いたします。

第3条【宿泊契約の成立等】

- 宿泊契約は、当館が前条の申込みを承諾したときに成立するものとします。ただし、当館が承諾をしなかったことを証明したときは、この限りではありません。
- 前項の規定により宿泊契約が成立したときは、宿泊期間（3日を超えるときは3日間）の基本宿泊料を限度として、当館が定める申込金を当館が指定する日までにお支払いいただきます。
- 申込金は、まず、宿泊客が最終的に支払うべき宿泊料金に充当し、第6条および第18条の規定を適用する事態が生じたときは、違約金に次いで賠償金の順序で充当し、残額があれば、第12条の規定による料金の支払いの際に返還いたします。
- 第2項の申込金を同項の規定により当館が指定した日までにお支払いいただけない場合、宿泊契約は、その効力を失うものとします。ただし、申込金の支払期日を指定するに当たり、当館がその旨を宿泊客に告知した場合に限ります。

第4条【申込金の支払いを要しないこととする特約】

- 前条第2項の規定にかかわらず、当館は、契約の成立後に同項の申込金の支払いを要しないこととする特約に応じることがあります。
- 宿泊契約の申込みを承諾するに当たり、当館が前条第2項の申込金の支払いを求めなかった場合および当該申込金の支払期日を指定しなかった場合は、前項の特約に応じたものとして取扱います。

第5条【宿泊契約締結の拒否】

- 当館は、次に掲げる場合において、宿泊契約の締結に応じないことがあります。
 - ① 宿泊の申込みがこの約款によらないとき。
 - ② 満室等により客室の余裕がないとき。

- ③ 宿泊しようとする者が宿泊に関し、法令の規定、公の秩序もしくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき。
- ④ 宿泊しようとする者が、次のイからハに該当すると認められるとき。
 - イ. 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団（以下「暴力団」という）、同条第2条第6号に規定する暴力団員（以下「暴力団員」という）、暴力団準構成員または暴力団関係者その他の反社会勢力。
 - ロ. 暴力団または暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体であるとき。
 - ハ. 法人でその役員の中に暴力団員に該当する者があるもの。
- ⑤ 宿泊しようとする者が、他の宿泊客に著しい迷惑を及ぼす言動をしたとき。
- ⑥ 宿泊しようとする者が、伝染病者であると明らかに認められるとき。
- ⑦ 宿泊に関し、暴力的要求行為が行われ、または合理的な範囲を超える負担を求められたとき。
- ⑧ 天災、施設の故障、その他止むを得ない事由により宿泊させることができないとき。

第6条【宿泊客の契約解除権】

- 1. 宿泊客は、当館に申出て、宿泊契約を解除することができます。
- 2. 当館は、宿泊客がその責めに帰すべき事由により宿泊契約の全部または一部を解除した場合（第3条第2項の規定により、当館が申込金の支払期日を指定してその支払いを求めた場合であって、その支払いより前に宿泊客が宿泊契約を解除したときを除きます）は、別表第2に掲げるところにより、違約金を申受けます。ただし、当館が第4条第1項の特約に応じた場合にあつては、その特約に応じるに当たって、宿泊客が宿泊契約を解除したときの違約金支払義務について当館が宿泊客に告知したときに限ります。
- 3. 当館は、宿泊客が連絡をしないで宿泊日当日の午後8時（予め到着時刻が明示されている場合は、その時刻を2時間経過した時刻）になっても到着しないときは、その宿泊契約は宿泊客により解除されたものとみなし処理することがあります。

第7条【当館の契約解除権】

- 1. 当館は、次に掲げる場合においては、宿泊契約を解除することがあります。
 - ① 宿泊客が宿泊に関し、法令の規定、公の秩序もしくは善良の風俗に反する行為をするおそれがあると認められるとき、または同行為をしたと認められるとき。
 - ② 宿泊客が、次のイからハに該当すると認められるとき。
 - イ. 暴力団、暴力団員、暴力団準構成員または暴力団関係者その他の反社会的勢力。
 - ロ. 暴力団または暴力団員が事業活動を支配する法人その他の団体であるとき。
 - ハ. 法人でその役員の中に暴力団員に該当する者があるもの
 - ③ 宿泊客が、他の宿泊客に著しい迷惑を及ぼす言動をしたとき。
 - ④ 宿泊客が、伝染病者であると明らかに認められるとき。
 - ⑤ 宿泊に関し、暴力的要求行為が行われ、または合理的な範囲を超える負担を求められたとき。
 - ⑥ 天災等不可抗力に起因する事由により宿泊させることができないとき。
 - ⑦ 寝室での寝たばこ、消防用設備等に対するいたずら、その他当館が定める利用規則の禁止事項（火災予防上必要なものに限る）に従わないとき。
- 2. 当館が前項の規定に基づいて宿泊契約を解除したときは、宿泊客が未だ提供を受けていない宿泊サービス等の料金はいただきません。

第8条【宿泊の登録】

- 1. 宿泊客は、宿泊日当日、当館のフロントにおいて次の事項を登録していただきます。
 - ① 宿泊客の氏名、年齢、性別、住所および職業
 - ② 外国人にあつては、国籍、旅券番号、入国地および入国年月日
 - ③ 出発日および出発予定時刻
 - ④ その他当館が必要と認める事項

2. 宿泊客が第12条の料金の支払いを、旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等通貨に代わり得る方法により行おうとするときは、予め前項の登録時にそれらを呈示していただきます。

第9条【客室の使用時間】

1. 宿泊客が当館の客室を使用できる時間は、午後3時から翌朝10時30分までとします。ただし、連続して宿泊する場合においては、到着日および出発日を除き、終日使用することができます。
2. 当館は、前項の規定にかかわらず、同項に定める時間外の客室の使用に応じることがあります。この場合には、次に掲げる追加料金を申受けます。ただし、当日の予約状況やその他の事由により応じられない場合もあります。
 - ① チェックアウト時間の延長…1時間毎に1室3,000円（税別）とします。

第10条【利用規則の遵守】

1. 宿泊客は、当館内においては当館が定めて館内に掲示した利用規則に従っていただきます。

第11条【営業時間】

1. 当館の主な施設等の営業時間は、次のとおりとし、その他の施設等の詳しい営業時間は、備付パンフレット、各所の掲示、客室内のサービスディレクトリー等でご案内いたします。
 - ① フロント・キャッシャー等サービス時間
 - イ. 門限…なし（ただし、ロビー棟は夜0時から翌朝5時まで施錠いたします）
 - ロ. フロントサービス…午前7時から午後9時まで
 - ② 食事処サービス時間
 - イ. 朝食…午前7時30分から午前9時30分まで
 - ロ. 昼食…午前11時から午後3時まで
 - ハ. 夕食…午後6時から午後9時まで
 - ③ 付帯施設サービス時間
 - イ. えんじ（カフェ）…午前11時から午後3時まで
 - ロ. えんじ（バー）…午後7時30分から午後11時まで
2. 前項の時間は必要止むを得ない場合には、臨時に変更することがあります。その場合には、適当な方法をもってお知らせいたします。

第12条【料金の支払い】

1. 宿泊客が支払うべき宿泊料金等の内訳は、別表第1に掲げるところによります。
2. 前項の宿泊料金等の支払いは、通貨または当館が認めた旅行小切手、宿泊券、クレジットカード等これに代わり得る方法により、宿泊客の出発の際または当館が請求したとき、フロントにおいて行っていただきます。
3. 当館が宿泊客に客室を提供し使用が可能になった後、宿泊客が任意に宿泊しなかった場合においても、宿泊料金は申受けます。

第13条【当館の責任】

1. 当館は、宿泊契約およびこれに関連する契約の履行に当たり、またはそれらの不履行により宿泊客に損害を与えたときは、その損害を賠償いたします。ただし、それが当館の責めに帰すべき事由によるものでないときは、この限りではありません。
2. 当館は、万一の火災等に対処する為、旅館賠償責任保険に加入しております。

第14条【契約した客室の提供ができないときの取扱い】

1. 当館は、宿泊客に契約した客室を提供できないときは、宿泊客の了解を得て、できる限り同一の条件による他の宿泊施設を斡旋するものとします。
2. 当館は、前項の規定にかかわらず、他の宿泊施設の斡旋ができないときは、違約金相当額の補償料を宿泊客に支払

い、その補償料は損害賠償額に充当いたします。ただし、客室が提供できないことについて、当館の責めに帰すべき事由によるものでないときは、補償料を支払いません。

第 15 条【寄託物等の取扱い】

1. 宿泊客がフロントにお預けになった物品または現金並びに貴重品について、滅失、毀損等の損害が生じたときは、それが不可抗力である場合を除き、当館は、その損害を賠償いたします。
2. 宿泊客が当館内にお持込みになった物品または現金並びに貴重品であって、フロントにお預けにならなかったものについて、当館の故意または過失により滅失、毀損等の損害が生じたときは、当館は、その損害を賠償いたします。

第 16 条【宿泊客の手荷物または携帯品の保管】

1. 宿泊客の手荷物が宿泊に先立って当館に到着した場合は、その到着前に当館が了解したときに限って責任をもって保管し、宿泊客がフロントにおいてチェックインする際にお渡しいたします。
2. 宿泊客がチェックアウトした後、宿泊客の手荷物または携帯品が当館に置き忘れられていた場合において、その所有者が判明したときは、当館は、当該所有者に連絡をするとともにその指示を求めるものとします。ただし、所有者の指示がない場合または所有者が判明しないときは、発見日を含め 7 日間保管し、その後最寄りの警察署に届けます。
3. 前 2 項の場合における宿泊客の手荷物または携帯品の保管についての当館の責任は、第 1 項の場合にあっては前条第 1 項の規定に、前項の場合にあっては同条第 2 項の規定に準じるものといたします。

第 17 条【駐車場の責任】

1. 宿泊客が当館の駐車場をご利用になる場合、車両のキーの寄託の如何にかかわらず、当館は、場所をお貸しするものであって車両の管理責任まで負うものではありません。ただし、駐車場の管理に当たり、当館の故意または過失によって損害を与えたときは、その賠償の責めに任じます。

第 18 条【宿泊客の責任】

1. 宿泊客の故意または過失により当館が損害を被ったときは、当該宿泊客は、当館に対しその損害を賠償していただきます。

別表第 1（宿泊料金等の内訳）

		内訳
宿泊客が支払うべき総額	宿泊料金	基本宿泊料
	追加料金	追加飲食料およびその他の利用料
	税金	消費税 入湯税

別表第 2（違約金）

		契約解除の通知を受けた日							
		不泊	当日	前日	2 日前	3 日前	4～7 日前	8～14 日前	15 日前～
契約申込人数	～30 名	100%	50%	30%	20%	10%	なし		
	31 名～					10%		なし	

%は、基本宿泊料に対する違約金の比率です。